

## 第3回全校授業研究会

～高等部 生活単元学習～

9月7日（水）特別支援教育課指導主事小山高志先生を助言者に、高等部の全校授業研究会を行いました。「人的環境の整備」「物的環境の整備」「学習活動」の各視点でグループ協議を行い、授業の改善点や次單元へのアイデアなどについて各グループから活発な意見が出されました。ここで出された成果や課題を日々の授業の中でも意識して指導を行っていきましょう。

### グループ協議から～改善点～



#### 物的環境の整備

##### 【評価の視覚化】

- 自己評価と他者評価の一致や、次時に活用するため、iPadなど情報機器を活用する。
- 記号で表せない評価や意見を、板書等で記録して残しておく。

#### 人的環境の整備

##### 【生徒同士をつなぐ関わり】

- 教師と生徒1対1の関わりではなく、生徒の発言を受け止め、全体で共有できるような言葉掛けをする。

##### 【教師の役割分担】

- 場面ごとの教師の役割を明確にして、T2以下の教師が子どものつぶやきを拾ったり、接客改善のポイントを押さえたりするための支援を行ったりする。
- お客役から接客の感想を聞いたり、生徒がお客役をやったりする活動の設定も考えられる。

#### 学習活動

##### 【「本物」の活動の設定】

- お客さんが多い状況や待ち時間など、より本番を想定した接客練習を行う。道具やメニュー、配置なども本物の出店に近づける。

##### 【評価】

- 他者評価だけでなく、自己評価の場面を設定する。
- 他者からの評価をメモしたり、評価カードをもらったりするなど、自分の課題について後で振り返りができるようにする。

##### 【生徒主体の活動とするために】

- 生徒が気付いた課題を改善するために、どうすれば良いかを生徒同士が話し合う場面を設定する。
- グループでミーティングしてから再度実践する。

◎接客のスキルだけでなく、「お客さんに喜んでもらうには、どんな気持ちで接客をしたらいいだろう」、「おいしい天ぷらをぜひ食べてほしい」などという内面を育てるという意識が大切。

## 高等部における地域と関わる学習活動とは？（次単元へのつながりを含めて）

- ・生徒が必然性を感じ、「誰かのために役に立った」と意欲をもちながら学習を行うために必要。また、社会に出ていく前段階として、社会貢献や社会の基準を理解していく場面でもある。
- ・生徒が地域に貢献しているという意識を高め、地域の理解啓発を進めるため、木曜カフェや祭りへの出店、県外へのPRなど経験を広げていく。



## 指導助言 特別支援教育課指導主事 小山高志先生

### <指導案について> ～モデルとなる指導案～

- ・単元の設定の根拠や意図が明確で、この活動でなければ成立しない設定だった。
- ・チェックリストの内容が改善されて盛り込まれている。
- ・生徒の自発的な動機が学習活動に入っている。

### <本時の授業について> ～ポイントを明確にした学習活動～

- ・「接客のポイントを理解する」「自分の考えを伝える」「評価のポイントを理解する」「理由付けする」「友達の考えを受け入れる」などの力がないと成立しない授業であり、それを支援するための具体的な手立てがしっかりと準備されていた。それが、教師の予想を上回る生徒の発言や主体的な活動につながっていた。
- ・今回の授業では「目を見て渡す、話す」にポイントが絞られてきたようだった。ゲストティーチャーの効果があった。アドバイスした後の生徒の表情の変化が良く分かった。ただ目を見るではなく、平山さんのように「伝えている眼」を目指せるようになればいい。かき揚げの味が本当においしくなければ伝えたい気持ちをもてないので味も大事である。
- ・教師の存在が感じられない授業だった。視線を遮らないなど配置の工夫が見られた。ミニмумスタンダードが生きていた。

### <改善点、これからの学習について> ～やっていることの意味付け、価値付け～

- ・これから生徒が「何のために販売するのか」を自分で話せるようになることと、身に付けた力を発揮する場面が何度もあることが大切。
- ・おもてなしのスキルやトースターが終わるまでの間合いなど、気持ちのまわる生徒はそこまで求めても良い。みょうがのエピソードをもって接客の時のネタとして生かせるようにしてほしい。
- ・「笑顔」「両手で渡す」「丁寧な言葉遣い」は実習や職場でも必須。大人でも難しいことであるので、自分の認識で修正できない生徒は、タブレット端末で改善するなどの工夫が必要。
- ・活動に参加することの難しい生徒について、関わり方やTTの連携が良かった。パーティーションで仕切って活動する時に「スタッフルーム」などとつくと一体感が出るかもしれない。
- ・今日の授業で、接客の練習を計4回経験した。活動を身に付けるために必要な活動量だった。

### <研究について>

- ・授業の作り方の精度が上がっている。PDCAサイクルで、学部全体で共通理解を重ねていることが伝わる授業だった。
- ・全校研究、学部研究、授業が一本の線でつながっていた。全校研究の副題である「日々の授業と地域と関わる学習の関連」に迫っている。このまま進めてほしい。